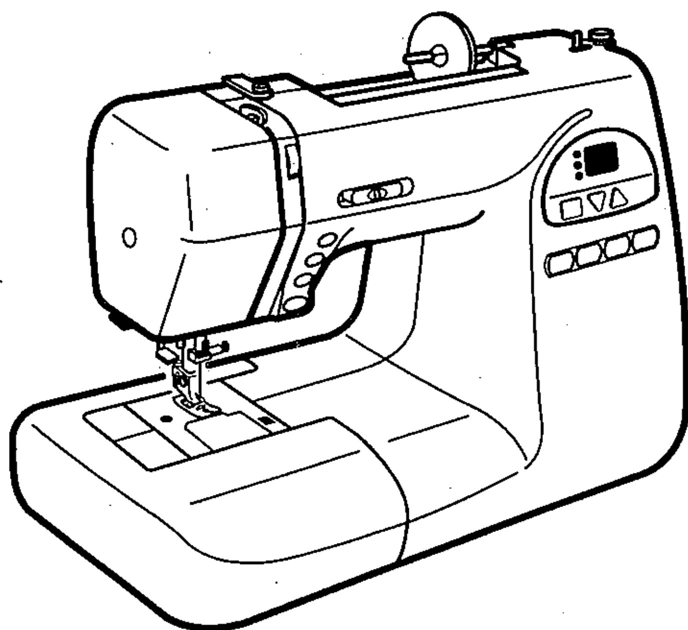
ご使用のしおり

《取扱説明書》

コンピュータミシン





JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

絵表示の例

⚠	⚠記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。
🛇	🛇記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
●	●記号は、行為を強制したり、指示したりする内容を告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な強制）が描かれています。

⚠警告 感電・火災の恐れがあります。


一般家庭用 交流電源 100Vでご使用ください。


以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき

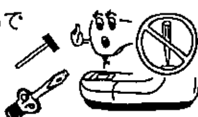


⚠注意 感電・火災・けがの原因となります。


【禁止】
フットコントローラーの上に物をのせないでください。




お客様自身での分解はしないでください。




ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。




【禁止】
縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。


【禁止】
ミシンの通風口はふさがないでください。


【禁止】
曲がった針はご使用にならないでください。


針及び押えは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。


ランプ交換等で、面板をはずした場合には、必ず、しめねじで面板をとりつけてから、ミシンの操作をしてください。


お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。




以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。
・針・針板・押え・アタッチメントを交換するとき
・上糸・下糸をセットするとき
・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。）
・ミシンのお手入れを行うとき




ミシン・フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。
・正常に作動しないとき
・水に濡れたとき
・落下などにより破損したとき
・異常な臭い・音がするとき
・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

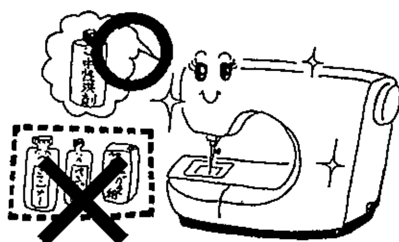
目　次

おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

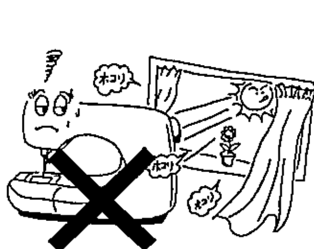


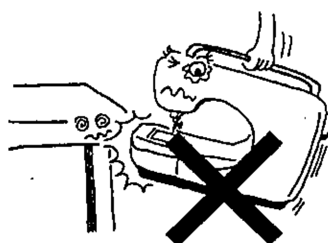
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

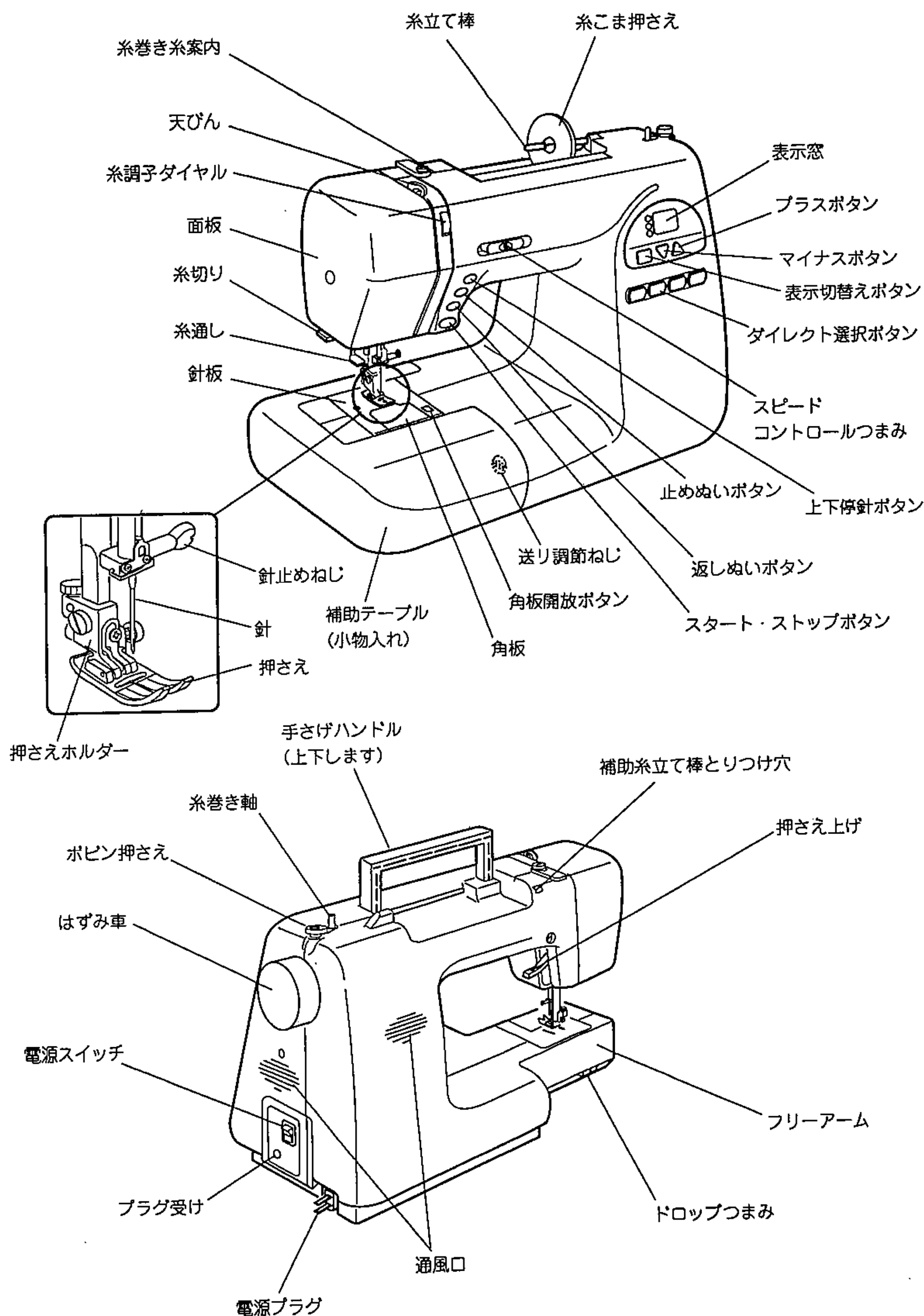




◇修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（34 ページ）により点検・調整を行ってください。

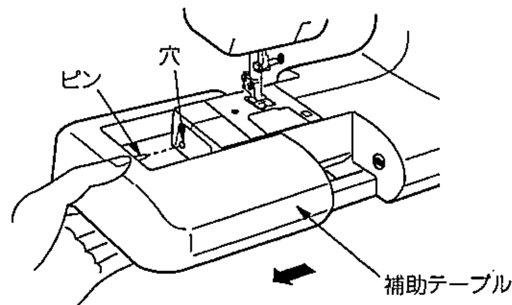
●各部のなまえ



糸立て棒
糸こま押さえ
糸巻き糸案内
天びん
糸調子ダイヤル
面板
糸切り
糸通し
針板
表示窓
プラスボタン
マイナスボタン
表示切替えボタン
ダイレクト選択ボタン
スピード
コントロールつまみ
止めぬいボタン
上下停針ボタン
針止めねじ
針
押さえ
押さえホルダー
補助テーブル
(小物入れ)
送り調節ねじ
角板開放ボタン
角板
返しぬいボタン
スタート・ストップボタン
手さげハンドル
(上下します)
補助糸立て棒とりつけ穴
糸巻き軸
ボビン押さえ
押さえ上げ
はずみ車
電源スイッチ
フリーアーム
プラグ受け
ドロップつまみ
通風口
電源プラグ

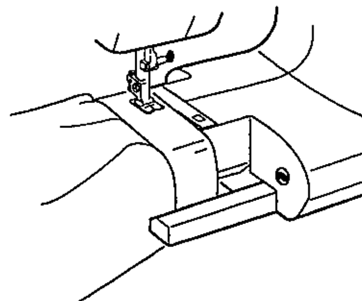
●補助テーブルの使い方

【補助テーブルのはずし方】
補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いてはずします。

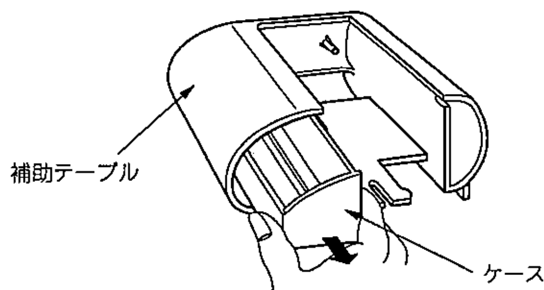


※補助テーブルを取付けるときは、フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ、とりつけます。

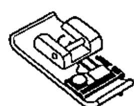
【フリーアームの使い方】
そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

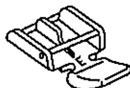


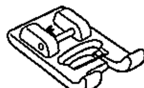
●標準付属品と収納場所



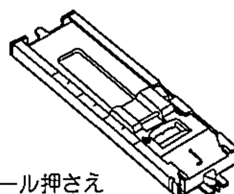
ケースを取り出し、押さえ等の小物を収納します。

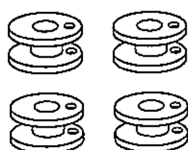
C:裁ち目かがり押さえ


E:ファスナー押さえ


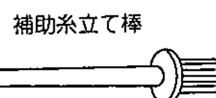
F:サテン押さえ


G:くけぬい押さえ

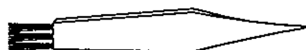


J:ボタンホール押さえ

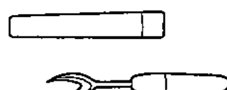
ボビン


キルター

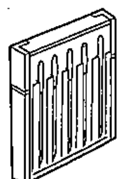

補助糸立て棒


ねじまわし


ミシンブラシ


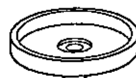
目ほどき


フエルト


針と針ケース


糸こま押さえ（大）

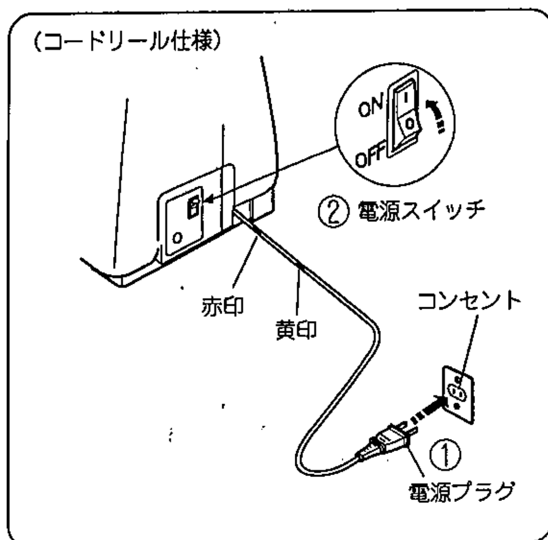

糸こま押さえ（小）


糸こま受け台


※糸こま押さえ（大）はミシンの糸立て棒についています。

●電源のつなぎ方

★スタート・ストップボタンを使用する場合



①電源スイッチを「OFF」(切) にして、電源プラグを引き出し、コンセントにさしこみます。

②スイッチを「ON」(入) にします。

【電源投入時】　1秒間ミシンの設定を行い、直線模様＃０１を表示します。

表示窓

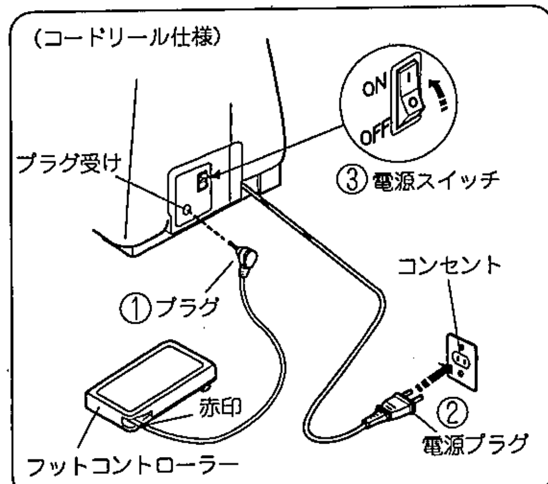




初期画面表示がおわったら、ミシンの準備が完了です。

※コードは赤印以上は引き出さないでください。
※電源は一般家庭用 (100V 50/60Hz) です。
※ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

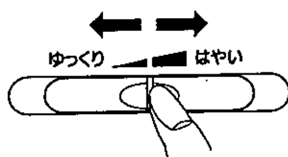
★フットコントローラーを使用する場合 (※フットコントローラーは、モデルにより別売りになります。)



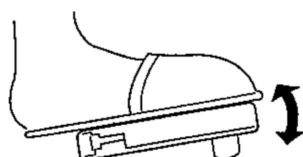
①電源スイッチを「OFF」(切) にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
②電源プラグを引き出し、コンセントにさしこみます。
③スイッチを「ON」(入) にします。

※フットコントローラーを使用する場合はスタート・ストップボタンは作動しません。
※コードは赤印以上は引き出さないでください。

●速さの調節のし方 (ミシンのスピードは、フットコントローラーやスピードコントロールつまみで調節します。)

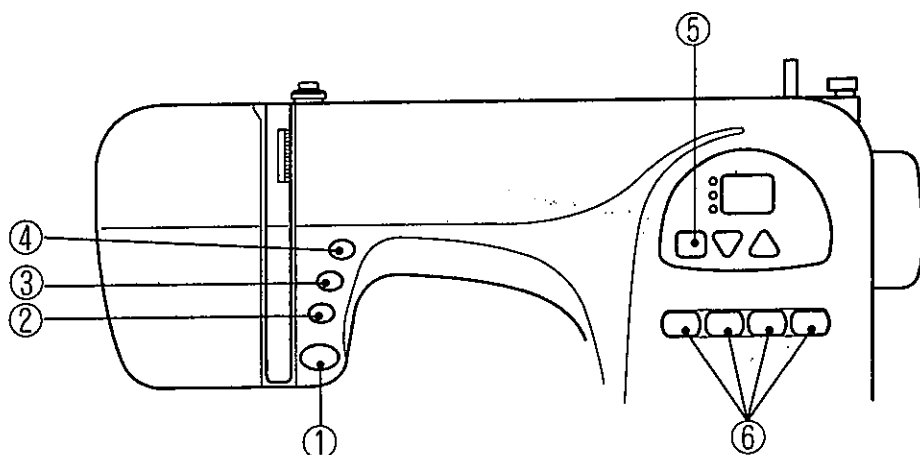


ぬう速さは、自由にセットできますので、お好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。



フットコントローラは、深くふみ込むほど速くなります。
※スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

●操作ボタンの主なはたらき



①スタート・ストップボタン

スタート/ストップ



ボタンを押すと、ゆっくり動きだしスピードコントロールつまみでセットした速さで動きはじめます。
※スタート・ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続ははずしてください。

②返しぬいボタン



【運転中の返しぬい】
模様 01 06 07 は、ボタンを押している間は返しぬいをします。
その他の模様のときには、すぐに止めぬいをして自動的に止まります。
【停止中の返しぬい】（スタート・ストップボタン使用時のみ）
模様＃０１、０６、０７は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと止まります。

③止めぬいボタン



模様 01 06 07 で、ボタンを押すと数針止めぬいをして自動的に止まります。
その他の模様ぬいのとき、模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。
※ぬう前にボタンを押しておくと、模様を一つぬって自動的に止まります。

④上下停針ボタン



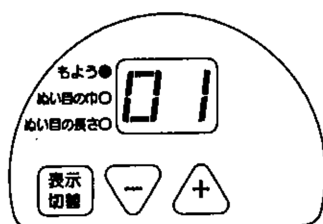
ミシンが止まっているとき、ボタンを押すと針が上位置から下位置に切りかわります。もう一度押すと、上位置にきりかわります。
※下位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は下位置で止まります。

⑤表示切替ボタン

表示
切替

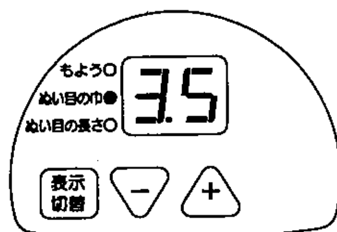
ボタンを押す毎に、「もよう」、「ぬい目の巾」、「ぬい目の長さ」を選択します。

（1）もよう表示



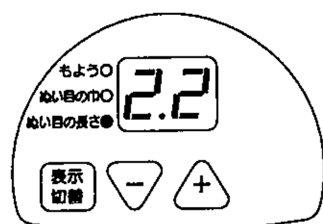
（1）もよう表示 .... − + ボタンで模様番号を選びます。
ぬい中は選べません。

（2）ぬい目の巾表示



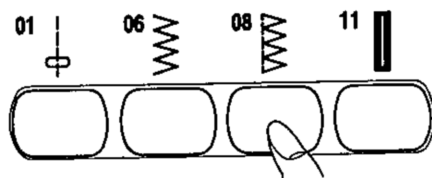
（2）ぬい目の巾表示 ..... − + ボタンでぬい目の巾がかえられます。
ぬい中でもかえられます。

（3）ぬい目の長さ表示



（3）ぬい目の長さ表示 ... − + ボタンでぬい目の長さがかえられます。
ぬい中でもかえられます。

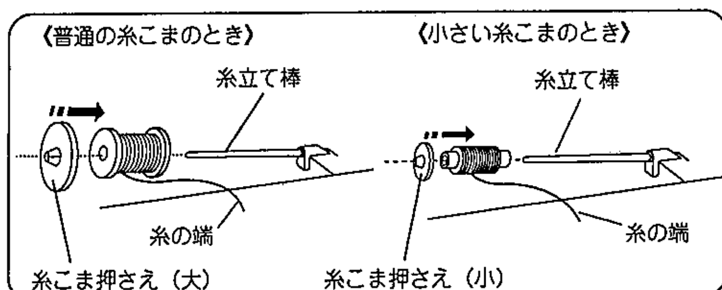
⑥ダイレクト選択ボタン



ボタンを押すと直接模様が選べます。
表示窓に選んだ模様が表示されます。

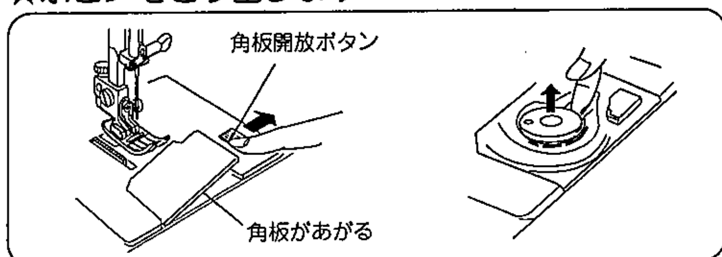
●下糸の準備をしましょう

★糸こまをセットします



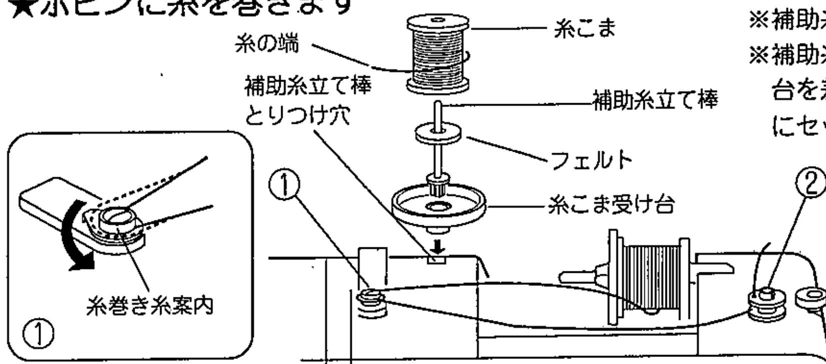
糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

★ボビンをとり出します



角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンをとり出します。

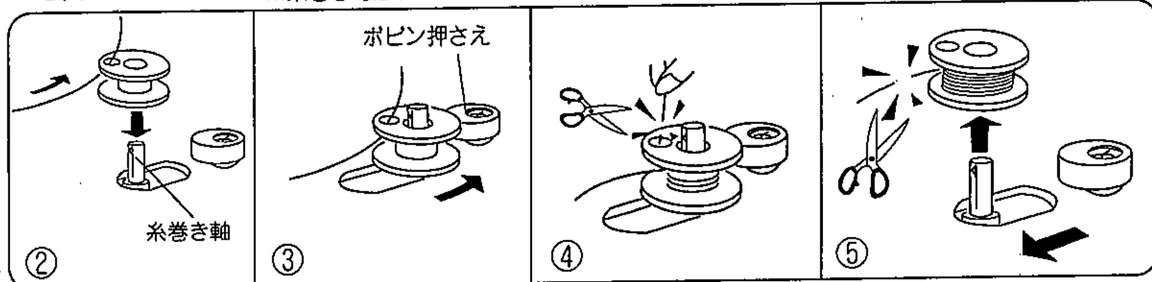
★ボビンに糸を巻きます



※補助糸立て棒の利用もできます。
※補助糸立て棒は、下側に糸こま受け台を差し込んだ状態で、取り付け穴にセットします。

①糸巻き糸案内に糸を掛けます。

※補助糸立て棒を利用のときは糸の端は、手前側から出るようにします。
※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやい」にセットしてご使用ください。



②ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。

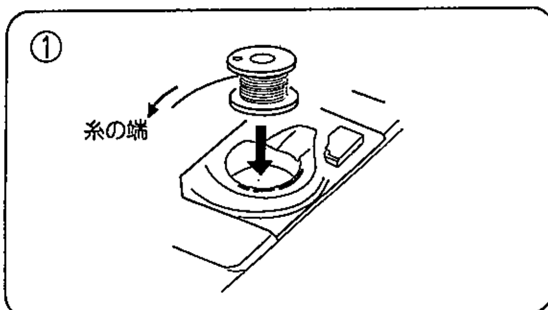
③ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。
SP と表示され、糸巻き位置にセットされたことを表示します。

④糸の端をつまんだまままスタートして、ボビンに糸が三重くらい巻きついたらミシンを止めて、糸を切ります。

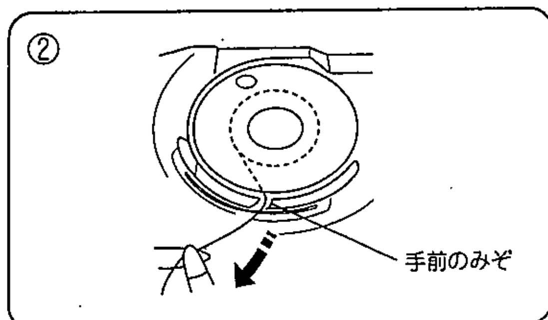
⑤ふたたびスタートして、巻きおわるとボビンの回転が止まります。
ミシンを止めて、糸巻き軸を戻し、糸巻き軸よりボビンを外し、糸を切ります。

※巻きおわった後、ミシンを止めなっか場合には安全の為、ミシンモータは２分間で自動停止します。

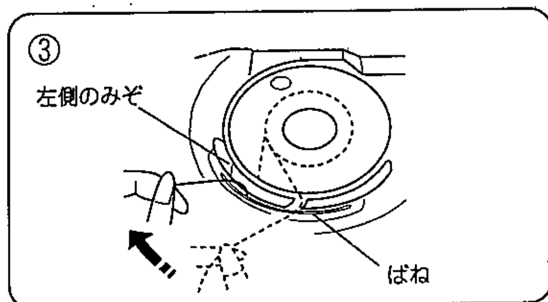
★ボビンをかまにセットします



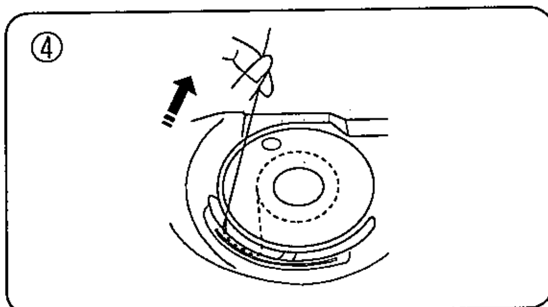
①糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。



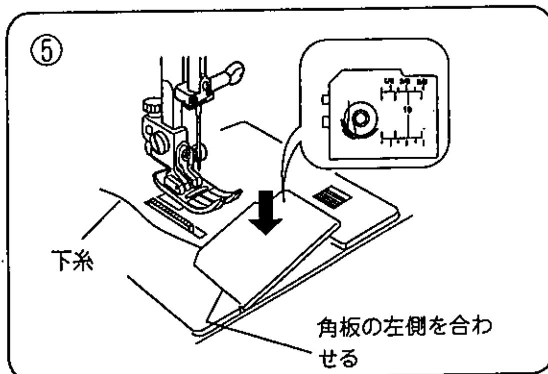
②糸の端を引きながら、手前のみぞに掛けます。



③糸を引きながら、左へ移動させ、みぞの外側とばねの間を通して、左側のみぞのところに出します。



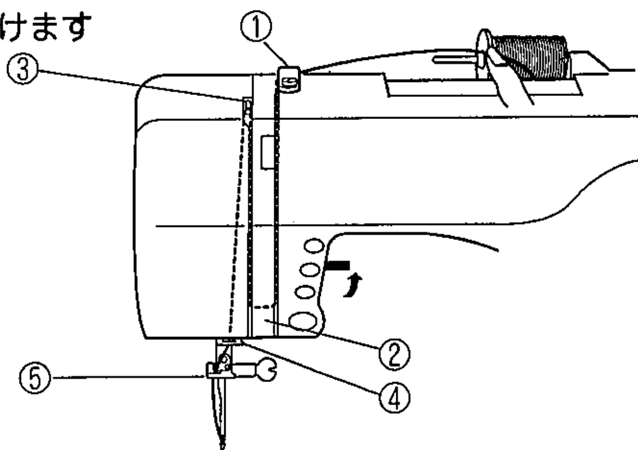
④糸を左側のみぞに掛けるように向こう側に出します。

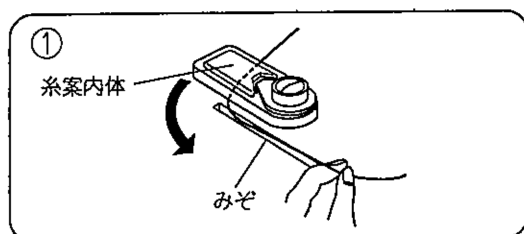


⑤下糸は１０cmくらい引き出して、角板を左側から合わせてつけます。

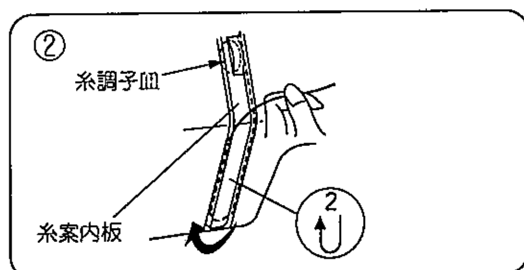
●上糸の準備をしましょう

★上糸を掛けます



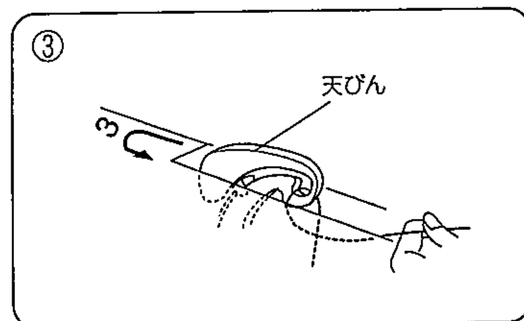


①押さえ上げをあげ、糸こまから糸を引き出し、糸こまを軽く押えながら糸案内体の下に巻きつけるようにして掛け、みぞにそって手前に糸を引き出します。

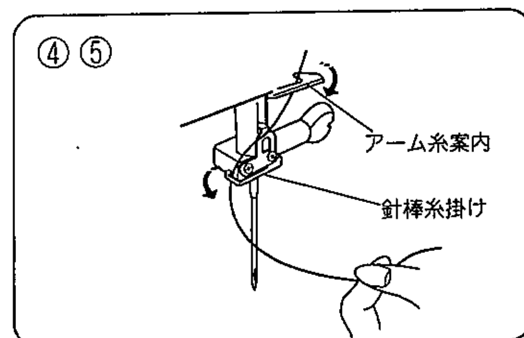


②糸こまから出ている糸を押さえて、糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。

※糸調子皿からはずれていないか確認してください。



③上下停針ボタンを2度押し、天びんを一番上にあげます。糸を天びんに右から後ろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。

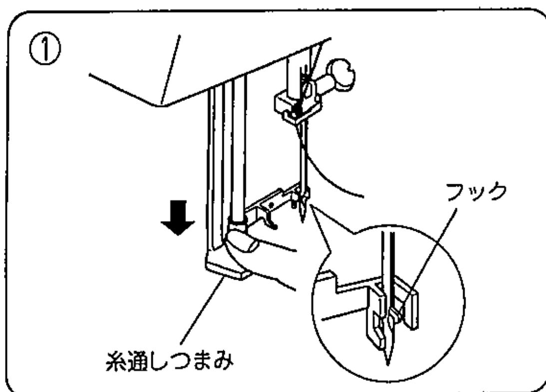


④アーム糸案内に右から掛けます。

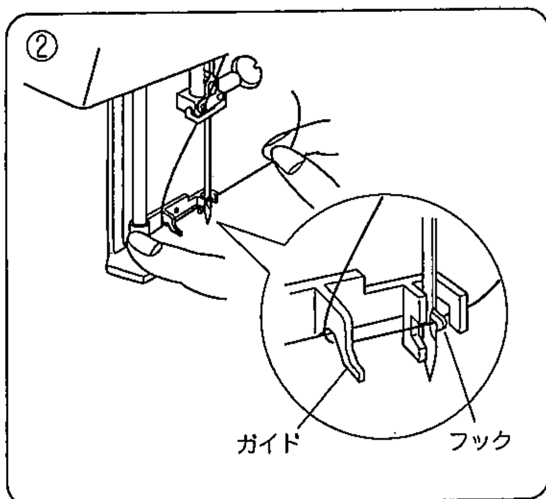
⑤針棒糸掛けに左から掛けます。

※針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、11ページをごらんください。

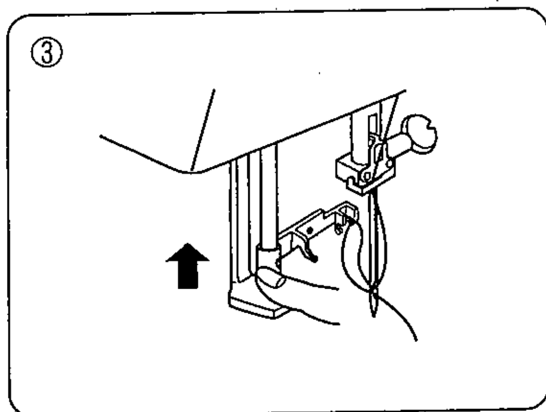
★糸通しの使い方



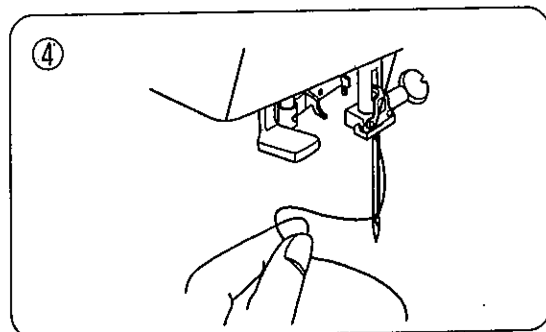
①針を一番上にあげて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいに引きさげます。
フックが針穴に入ります。



②糸を左側からガイドとフックに掛けます。



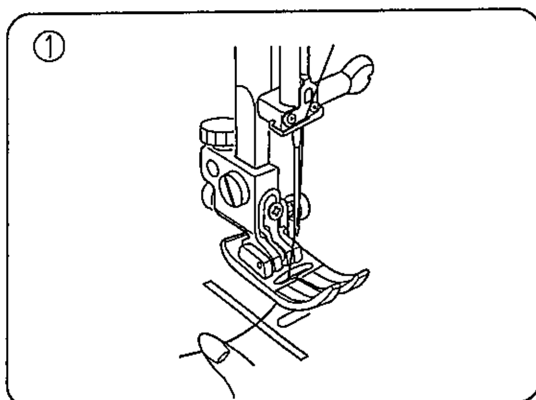
③糸を軽く持ち、糸通しつまみを静かに戻すと、糸の輪が引きあげられます。



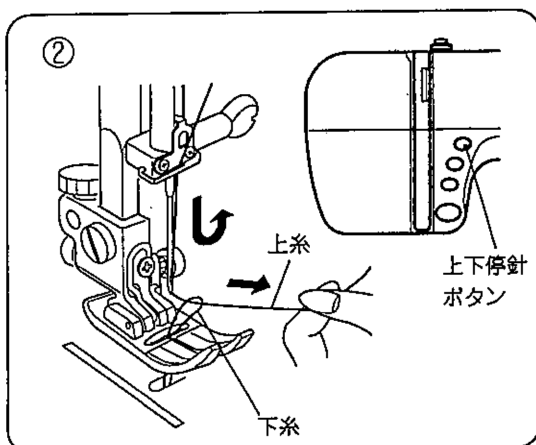
④糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

※針は、11番～16番及び、ジャノメブルー針が使えます。
糸は、50番～100番が使えます。

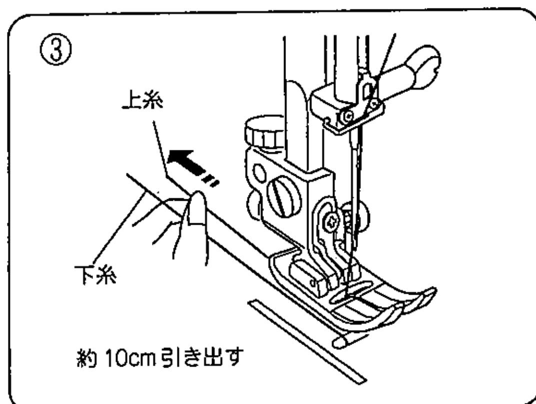
★下糸を引き上げます



①押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。



②上下停針ボタンを２度押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

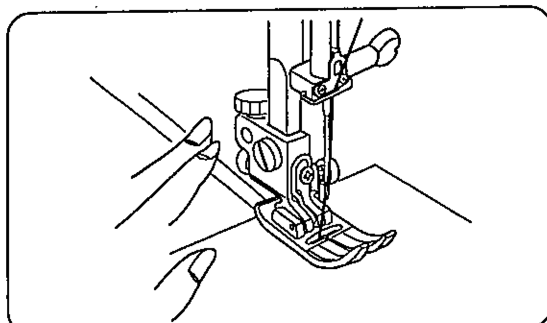


③上糸・下糸を押さえの下にして後ろへそろえて引き出します。

●直線ぬい



★ぬいはじめ

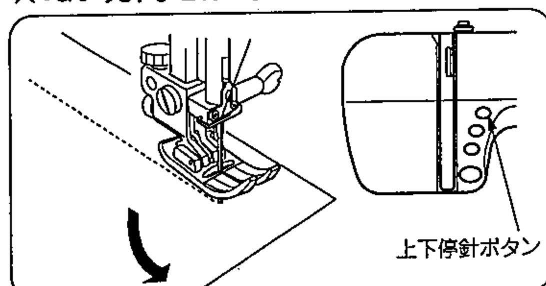


糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。

押さえ上げをさげて、ぬいはじめます。

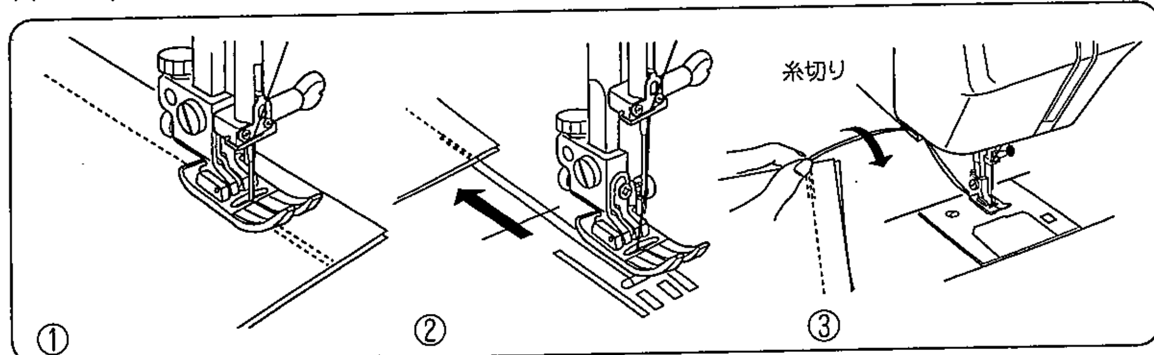
※ぬいはじめのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいをする方法と、自動返しぬいのついた模様＃02を使う方法があります。

★ぬい方向をかえるには



ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布に刺し、押さえ上げをあげます。
針を布に刺したまま、ぬい方向をかえます。

★ぬい終わりの返しぬい



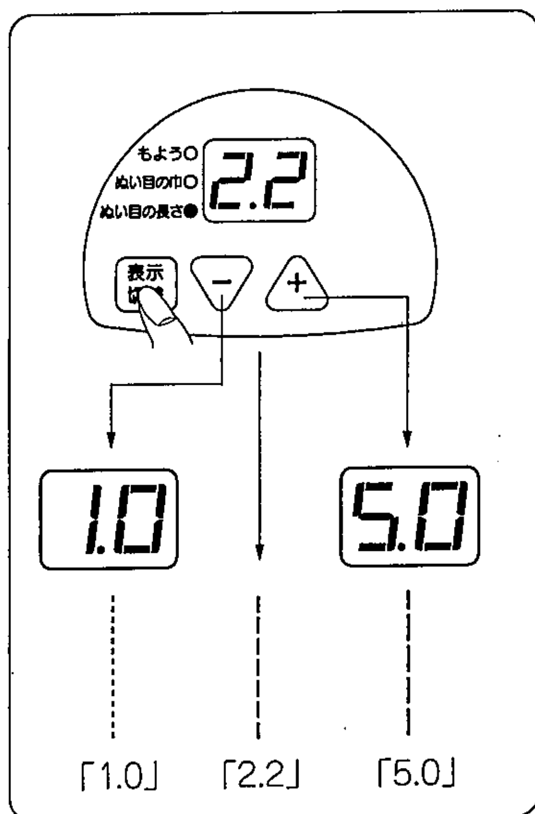
①返しぬいボタンを押しながら数針返しぬいをします。

※模様＃02のときには、返しぬいボタンを1度押すだけで、自動的に返しぬいをします。

②押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

③布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

★ぬい目の長さをかえるとき



表示切替 ボタンを押して、「ぬい目の長さ」を選択します。

自動セットの数値２．２が表示されます。

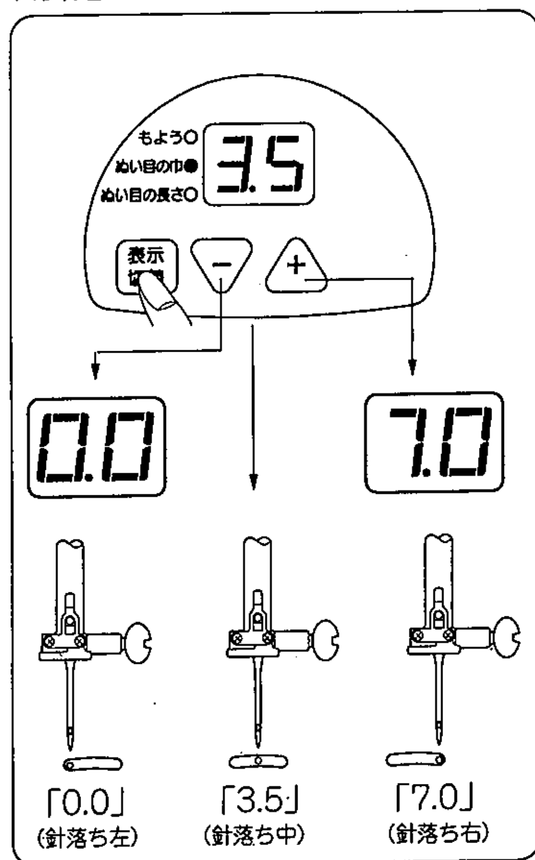
※０．０～５．０の範囲でかえることができます。長さの単位は、mmです。

「−」ボタンを押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が短くなります。

「＋」ボタンを押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目が長くなります。

※返しぬいのぬい目の長さは、2.5以上にはなりません。

★針落ちをかえるとき



※直線状のぬい目、模様 01 02 03 04 は、針落ち位置をかえることができます。

表示切替 ボタンを押して、「ぬい目の巾」を選択します。

「＋」、「−」ボタンで針落ち位置をかえます。

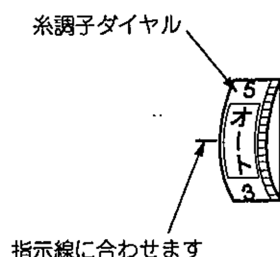
●直線状のぬい目いろいろ

模 様	押さえ	使 い 方
01	A:基本押さえ	地ぬいや、ファスナーつけなどに使います。
02	A:基本押さえ	しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使います。 (ぬいおわりにきたら、返しぬいボタンを１度押します。 数針返しぬいをしてから自動的に止まります。)
03	A:基本押さえ	目立たない止めぬいを自動的に行うときに使います。 (ぬいおわりにきたら、返しぬいボタンを１度押します。 数針止めぬいをして自動的に止まります。)
04	A:基本押さえ	伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに便利です。
05	A:基本押さえ	布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

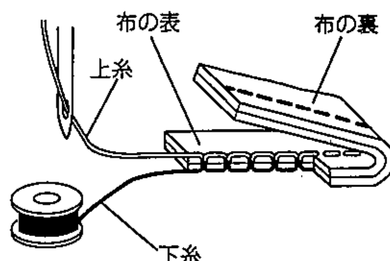
●糸調子の合わせ方

★自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、普通のぬいのときにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。



《バランスのとれた糸調子》
直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

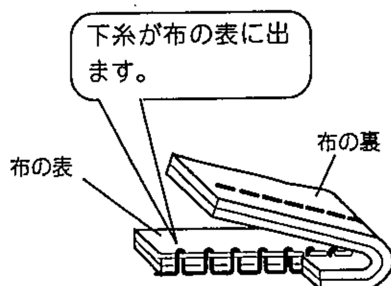


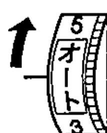
ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

★マニュアル糸調子

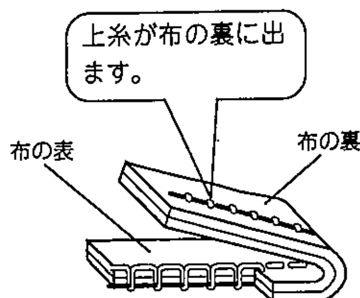
糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルを「0～9」に合わせると、マニュアル糸調子となり、上糸と下糸の交わる位置を自由に調節できます。

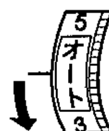
上糸が強すぎるとき・・・糸調子ダイヤルを小さな目盛に合わせます。



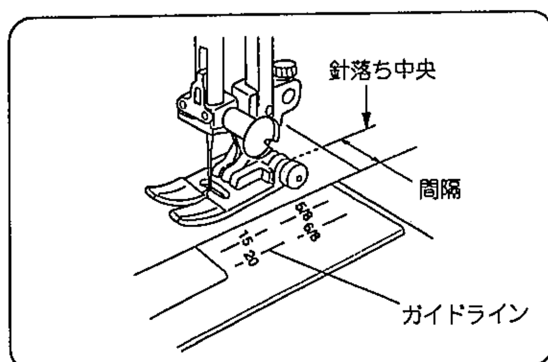


上糸が弱すぎるとき・・・糸調子ダイヤルを大きな目盛に合わせます。





●針板ガイドラインの利用

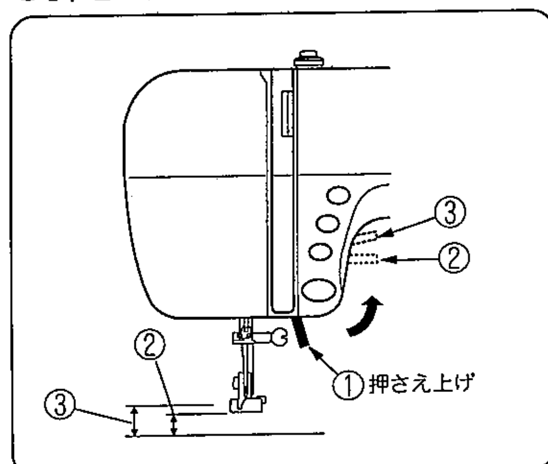


布端を針板ガイドラインに合わせてぬいます。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間隔 (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

※数字は、針落ち中央からガイドラインまでの間隔です。

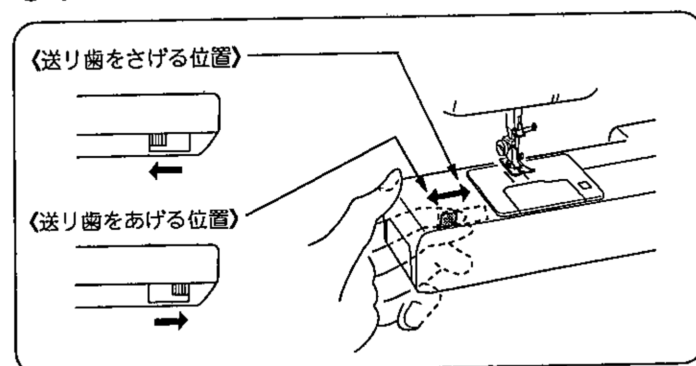
●押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげをします。
押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押えはさらにあがります。
補助リフトとしてお使いください。

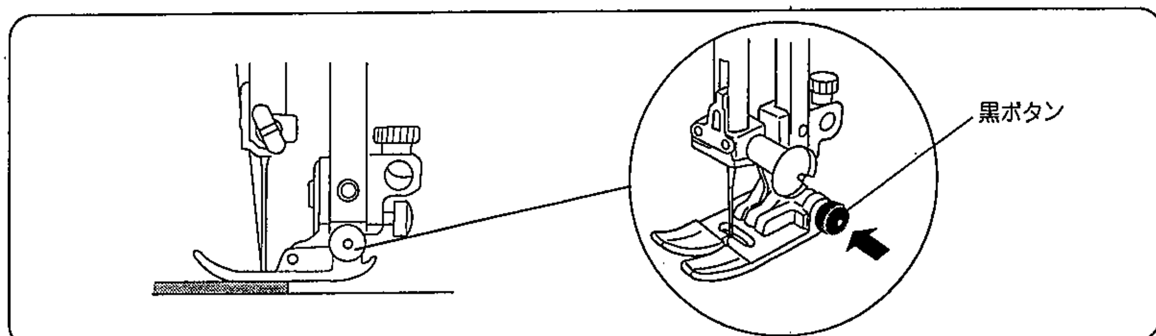
①さげた位置 .... ぬいのときには、さげておきます。
②普通にあげた位置.. 布のとり出しや、押さえの交換のときにあげます。
③さらにあげた位置.. 補助リフトで、布が入れやすくなります。

●ドロップつまみの使い方



ボタンつけなどのときは、送り歯をさげる位置にセットします。
※終わったら、送り歯をあげる位置に戻しておきます。送り歯はミシンが回転すると自動的にあがります。

●厚手の布端のぬいはじめ



①ぬいはじめの位置に針をさし、基本押えの黒ボタンを押しこみます。

②ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。

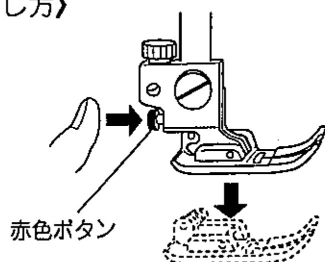
③ボタンから手をはなし、ぬいはじめます。

●押さえのとりかえ方

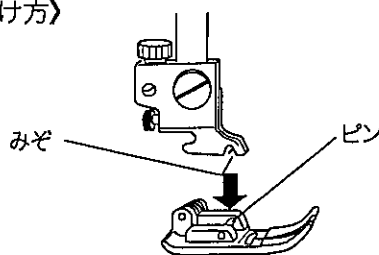


押さえのとりかえは､必ず､電源スイッチを切ってから行ってください。

《はずし方》



《つけ方》



押さえ上げをあげて､赤色ボタンを押して、押さえをはずします。

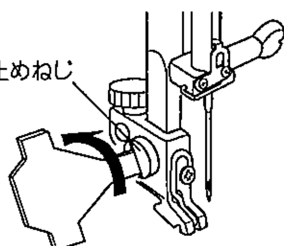
押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

●押さえホルダーのはずし方、つけ方

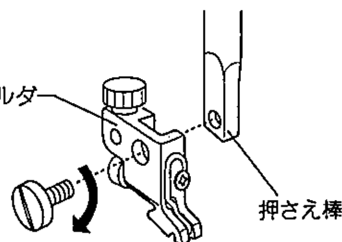


電源スイッチを切ってから行ってください。

《はずし方》



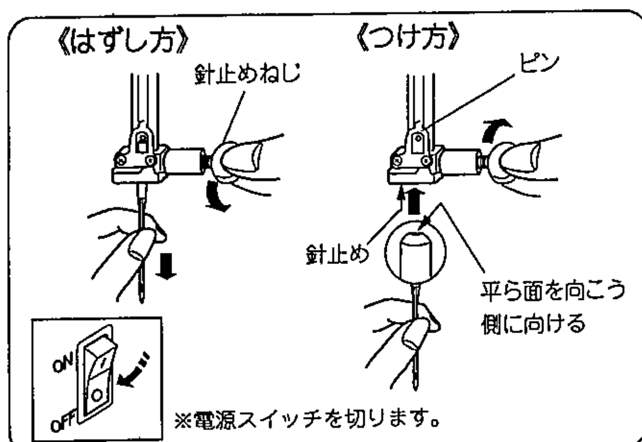
《つけ方》



押さえホルダー止めねじを左に回して、はずします。

押さえホルダー止めねじを右にまわして、つけます。

●針のとりかえ方



※針をあげ、押さえ上げをさげます。

【はずし方】

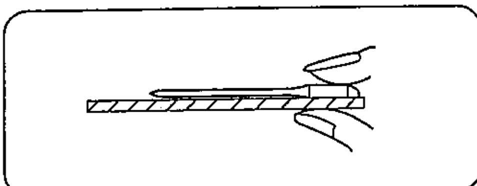
①針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。

【つけ方】

②針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまでさしこみ、針止めねじをかたくしめます。

⚠ 針のとりかえは、必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

【針の調べ方】



針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹　糸　８０番～１００番 綿　糸　８０番～１００番 化繊糸　８０番～１００番	9番～１１番
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール	絹　糸　５０番 綿　糸　６０番～８０番 化繊糸　５０番～８０番	１１番～１４番
		綿　糸　５０番	１４番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹　糸　５０番 綿　糸　４０番～５０番 化繊糸　４０番～５０番	１４番～１６番
		絹　糸　３０番 綿　糸　３０番	１６番

※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

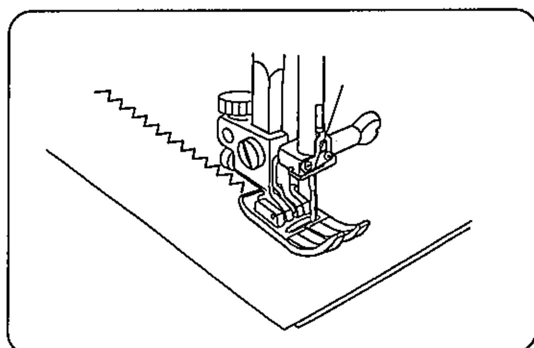
※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針を使用すると効果があります。

（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

●ジグザグぬい





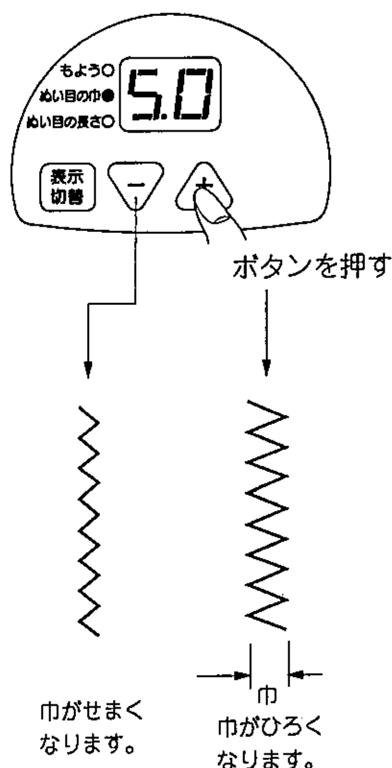
伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

★ぬい目の巾・長さをかえるとき

《巾をかえるとき》

表示切替 ボタンを押して、「ぬい目の巾」を選択します。

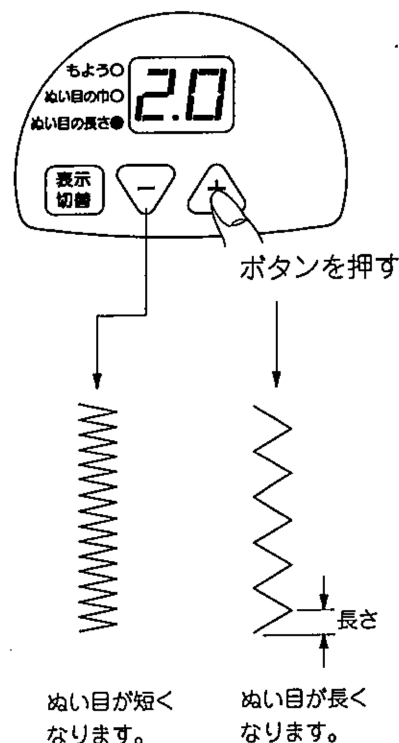
（自動セットの数値が表示される。）



《長さをかえるとき》

表示切替 ボタンを押して、「ぬい目の長さ」を選択します。

（自動セットの数値が表示される。）



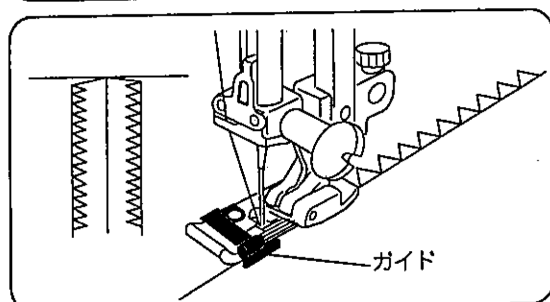
●裁ち目かがり

★ジグザグぬい裁ち目かがり

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
06	06	A：基本押さえ または C：裁ち目かがり押さえ	「オート」

※裁ち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の巾は、５．０～７．０でぬいます。

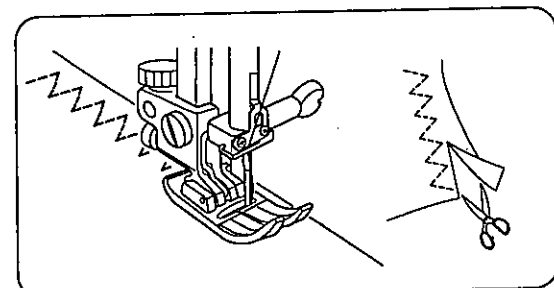


布端を裁ち目かがり押えのガイドに当ててぬいます。
布端のほつれ止めとして広く利用します。

★トリコットぬい裁ち目かがり

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
07	07	A：基本押さえ	「オート」

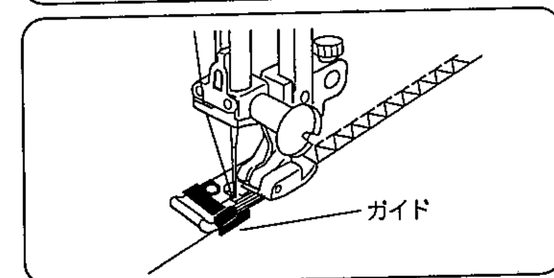


ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

★かがりぬい

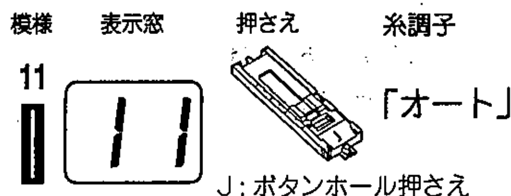
《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
08	08	C：裁ち目かがり押さえ	「オート」

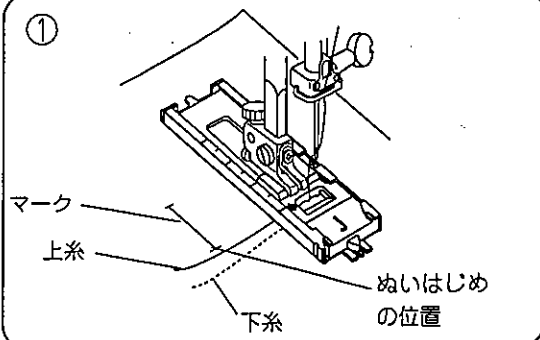


地ぬいをかねたかがりぬいで、また、裁ち目のほつれ止めとしても使えます。
布端をガイドにあててぬいます。
※ぬい目の巾は、５．０～７．０でぬいます。

●ボタンホール

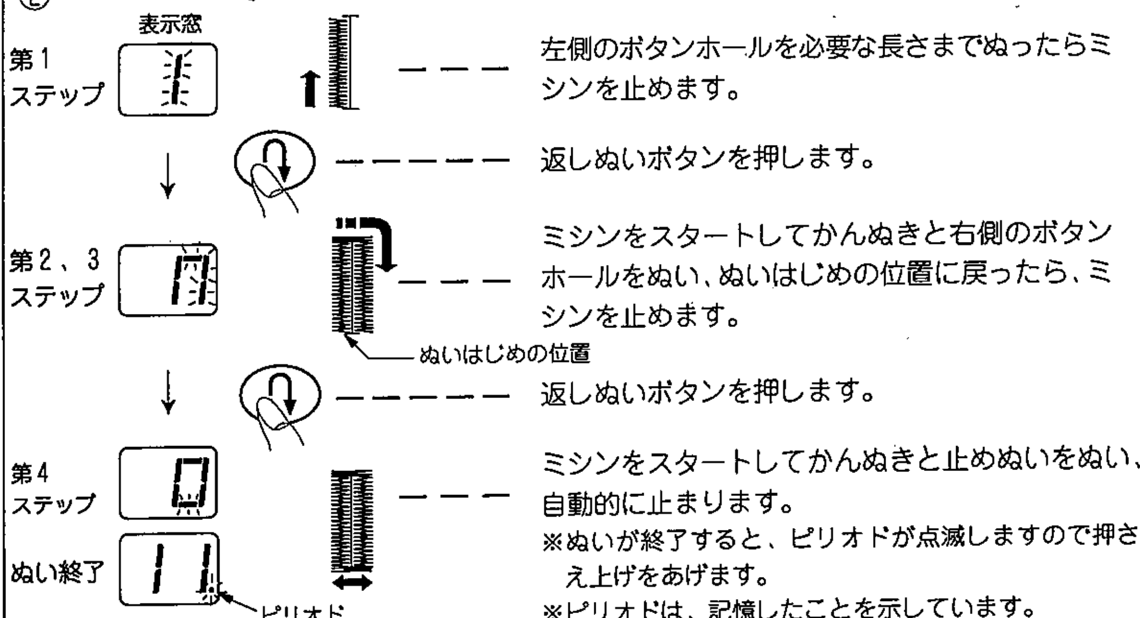


◎ぬうものと同じ布で試しぬいをして、セットを確かめましょう。
◎伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。



①押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。布を入れ、ぬいはじめの位置に針をさして、押さえ上げをさげます。

②スタート・ストップボタンを押し、ミシンをスタートしてぬいます。



左側のボタンホールを必要な長さまでぬったらミシンを止めます。

返しぬいボタンを押します。

ミシンをスタートしてかんぬきと右側のボタンホールをぬい、ぬいはじめの位置に戻ったら、ミシンを止めます。

返しぬいボタンを押します。

ミシンをスタートしてかんぬきと止めぬいをぬい、自動的に止まります。

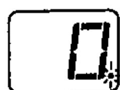
※ぬいが終了すると、ピリオドが点滅しますので押さえ上げをあげます。

※ピリオドは、記憶したことを示しています。

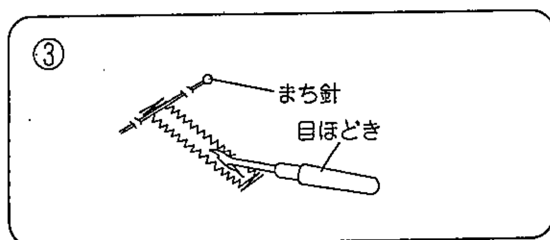
【同じ長さで2個目のボタンホールをぬう場合】

※ミシンは、1度ぬったボタンホールの大きさを記憶しています。

※2個目からは、同じ大きさのボタンホールが自動的にできます。
返しぬいボタンを押す必要はありません。
2個目のぬい中は、左記表示となります。

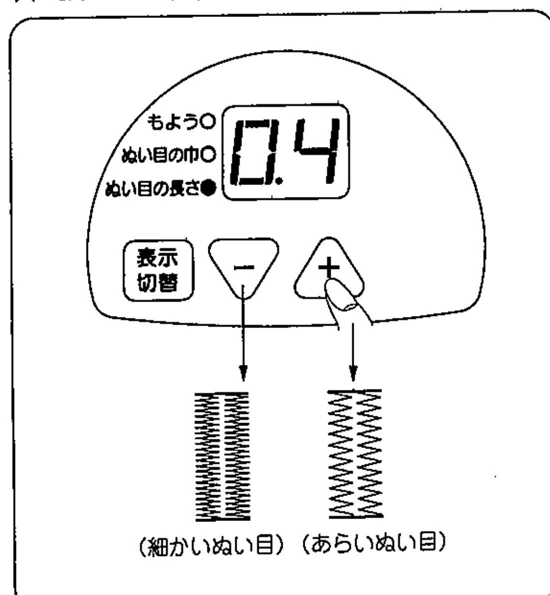


※ボタンホールをやり直したい場合には、ダイレクト選択ボタンで模様 11 を選びます。



③かんぬきの内側にまち針をわたして、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

★ぬい目の長さをかえるとき

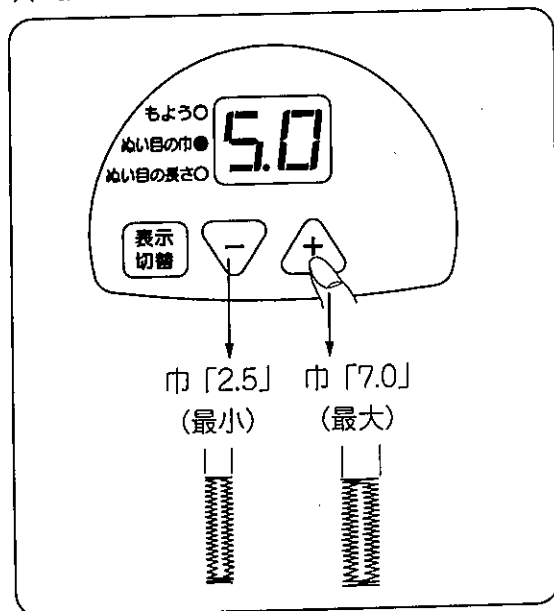


表示切替 ボタンで「ぬい目の長さ」を選択します。自動セットされている数値０．４が表示されます。

ぬい目の長さをかえるには、「＋」、または、「－」ボタンを押して０．２～０．８の範囲でかえてください。

※変更した数値は、電源を切るまで記憶しています。

★ぬい目の巾をかえるとき

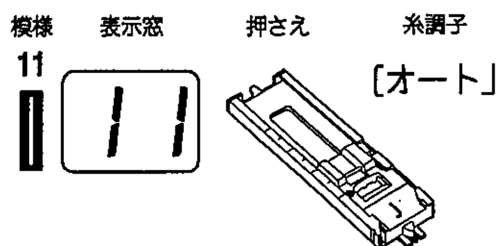


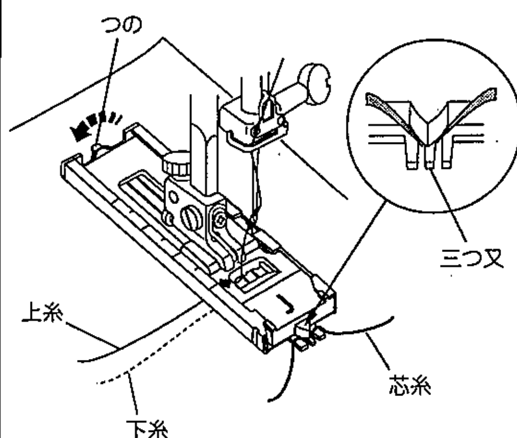
表示切替 ボタンで「ぬい目の巾」を選択します。自動セットされている数値５．０が表示されます。

ぬい目の巾をかえるには、「＋」、または、「－」ボタンを押して２．５～７．０の範囲でかえてください。

※変更した数値は、電源を切るまで記憶しています。

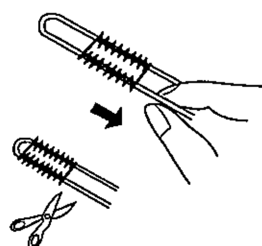
●芯入りボタンホール





①つのに掛けた芯糸を、押さえの下に通して、前側の切り込みにはさみます。

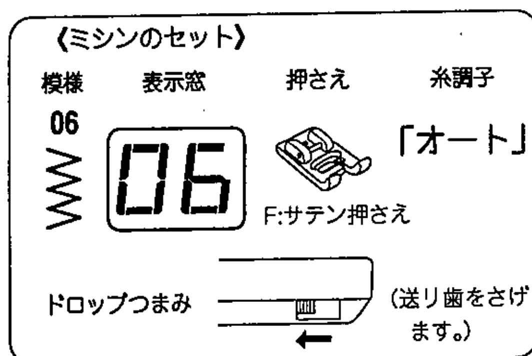
②ぬいはじめの位置に針をさして、押さえ上げをさげ､ボタンホール手順と同じようにぬいます。



③左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※穴のあけ方は、23ページをごらんください。

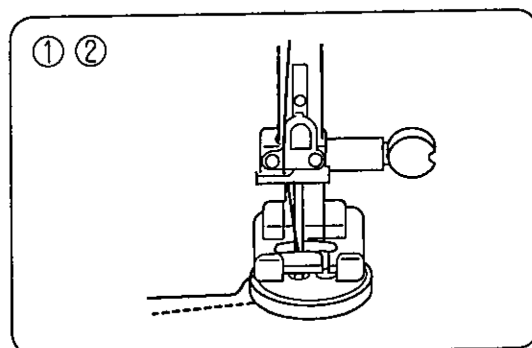
●ボタンつけ



【準備】

(1) 送り歯をさげます。

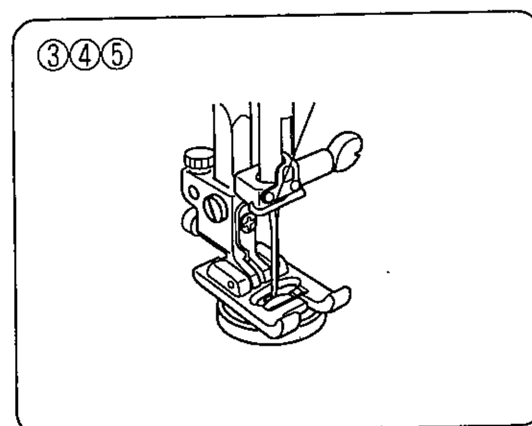
(2) ぬい目の巾をボタン穴の間かくに合わせて、調節します。



【ぬい】

①はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

②ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえ上げをさげます。



③はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。

④スピードコントロールつまみを「ゆっくり」にセットします。

⑤ 10針くらいぬったらミシンを止めます。

※ぬいはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

⑥押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を20cmくらい残して切ります。ぬいおわりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

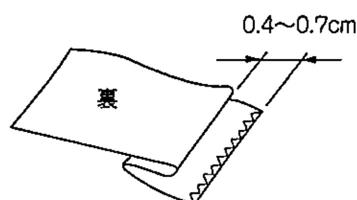
※ぬいおわったらドロップつまみを戻して、送り歯をあげます。

●くけぬい（まつりぬい）

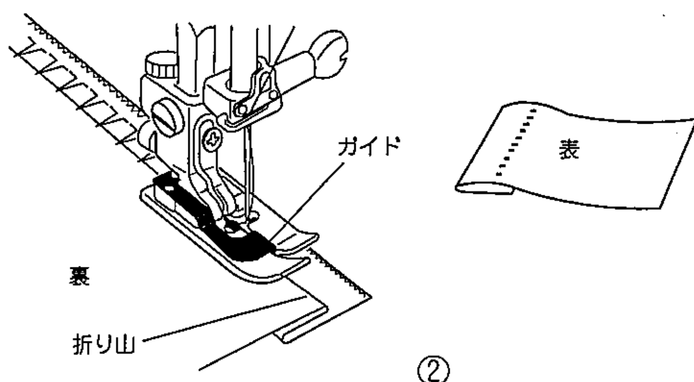
《ミシンのセット》



【布の折り方】



【ぬい方】

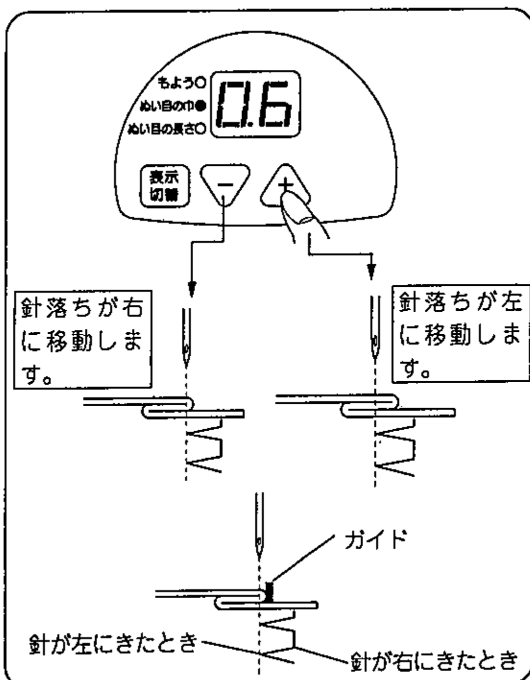


①ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないようにぬい目の巾キーで針落ち位置を調節してぬいます。

②ぬい終わったら布をひろげます。

※左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表にでるぬい目が大きくなりきれいに仕上がりませんので注意してください。

【針落ち位置をかえたいとき】



［表示切替］ボタンで「ぬい目の巾」を選択します。

自動セットされている数値０．６が表示されます。

※表示0.6はガイドから針落ちが左にきたときの巾を示します。

※模様＃０９は、ぬい目の巾は変化せずガイドからの針落ちがかわります。

○針が折り山にかからない場合「＋」ボタンを押して針落ちを左に移動させます。

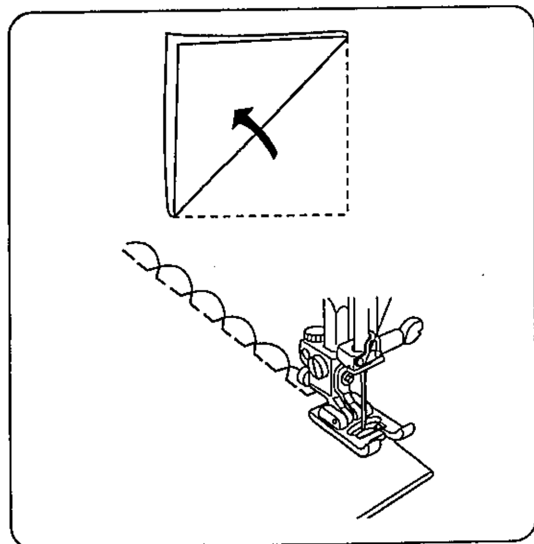
○針が折り山にかかりすぎる場合「－」ボタンを押して針落ちを右に移動させます。

●シェルタック

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
10	10	F:サテン押さえ	「6～8」

※糸調子は、試しぬいをしてシェルタックの山がきれいに出るように、調節します。



①うす手の布をバイアスに二つ折りにします。

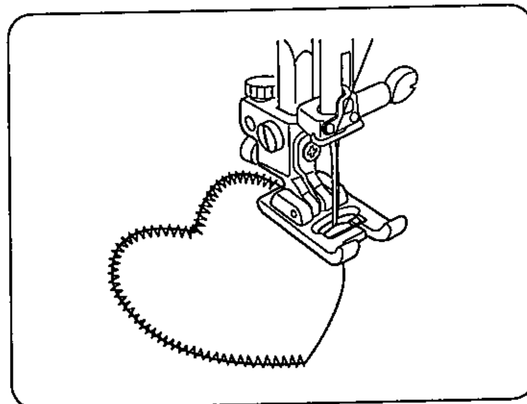
②針が右にきたとき、布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。

③布を開き、アイロンで山を片側に倒します。

●アップリケ

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
06	06	F:サテン押さえ	「オート」

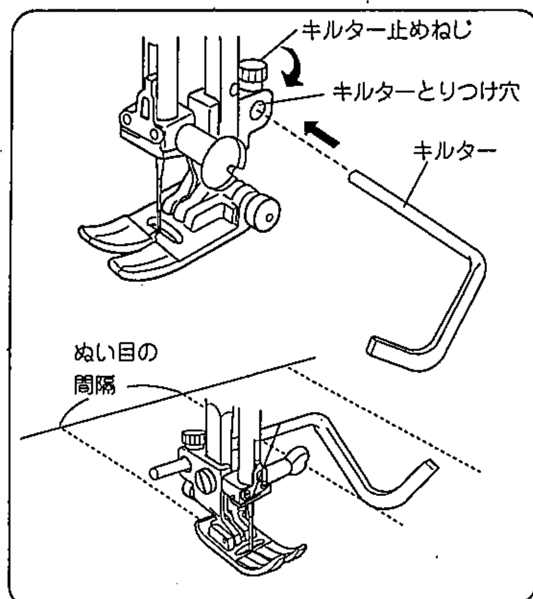


アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。針がアップリケ布の外側にくるようにしてぬいます。

※急角度のところで向きをかえるときはミシンを止め、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

●キルティング





キルター止めねじをゆるめて、キルターをとりつけ穴に入れ、ぬい目の間隔に合わせて、止めねじをしめます。

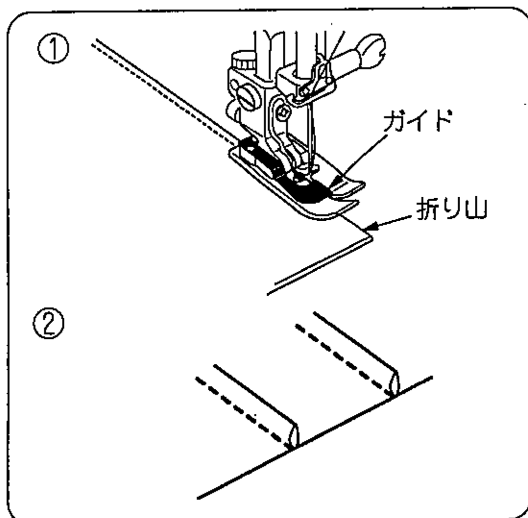
※キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●ピンタック



※ぬい目の巾を「0.0」にセットします。

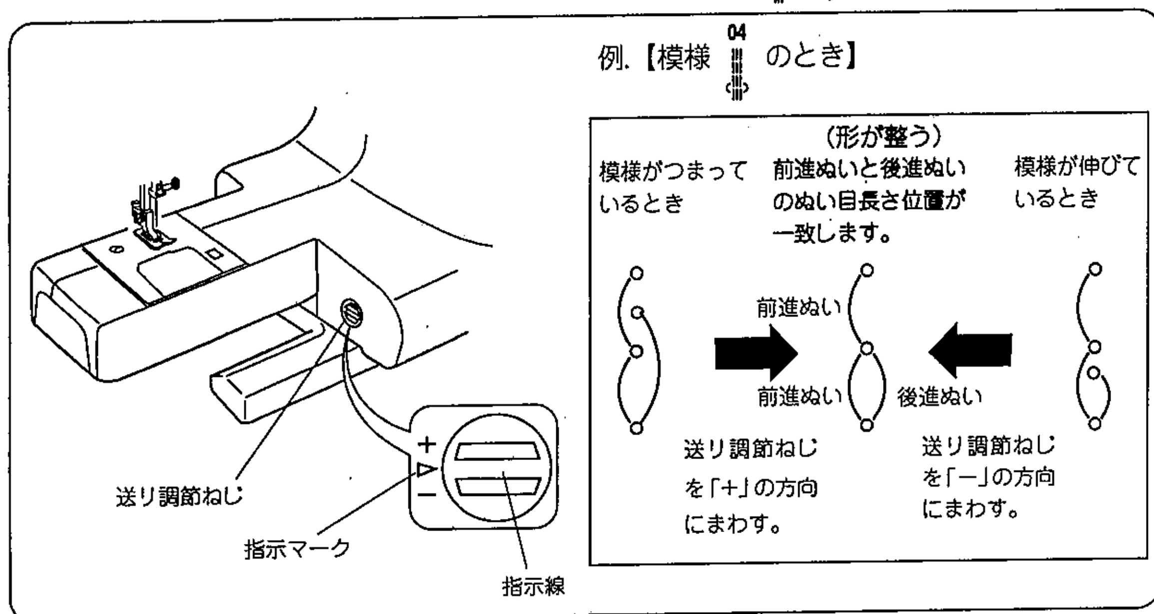




①布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

②ぬいおわったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

●スーパー模様の形の整え方　※スーパー模様は 04 08 です。



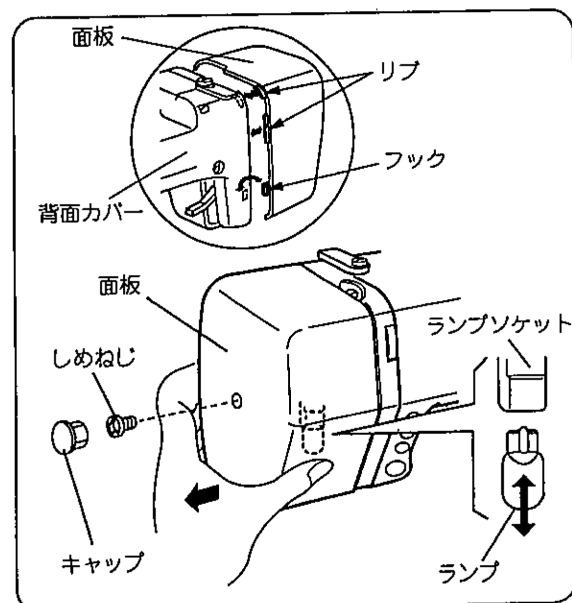
布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。

●ランプのとりかえ方



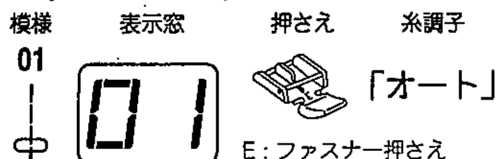
※ランプをとりかえるときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
※ランプは冷えてからはずしてください。



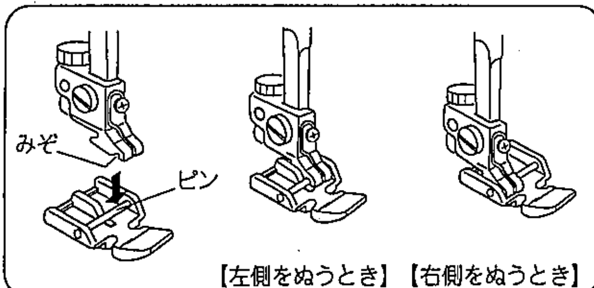
《はずし方》
①キャップとしめねじをはずし、背面カバーよりフックをはずして面板をはずします。
②ランプをそっと引き抜きます。

《つけ方》
①ランプをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。
②リブとフックを背面カバーに入れ、面板をしめねじでとりつけ、キャップをとりつけます。
※ランプの購入は、販売店へお問い合わせください。
ランプ品番は、000026002（12V、5W)です。
定格の異なるランプは、とりつけないでください。

●ファスナーつけ



【ファスナー押さえのつけ方】



◎左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
◎右側をぬうときは、左側にセットします。

【準備】 例：左脇あきのぬい方

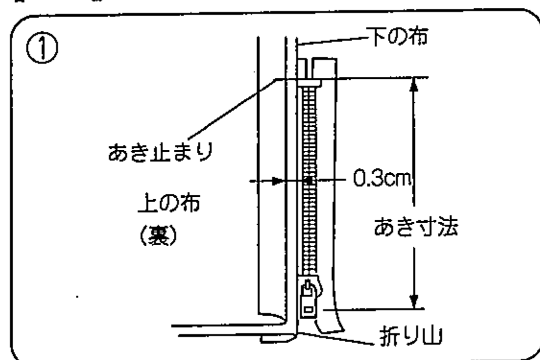
①
表
1cm
スライダー
あき寸法
ファスナー寸法
むし
裏
台布
あき止まり

【ファスナーのあき寸法を確かめます】
①あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。

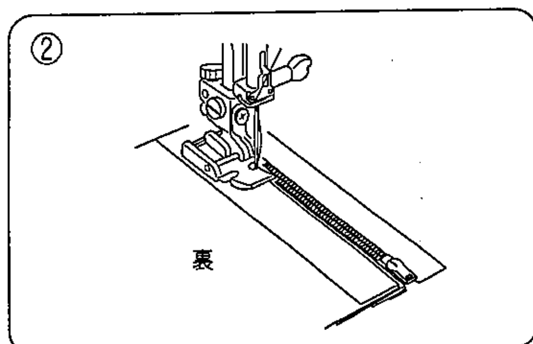
②
表
2cm
ぬい目のあらさ4.5（仮のぬい）
あき止まり
返しぬい
地ぬい

【仮のぬいのしつけと地ぬいをします】
②布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分は、ぬい目のあらさ4.5でしつけぬいをします。
※しつけは、ほどきやすいように糸調子を「1」くらいにしてぬいます。

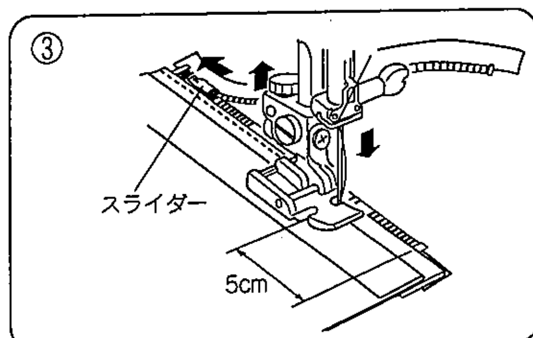
【ぬい】



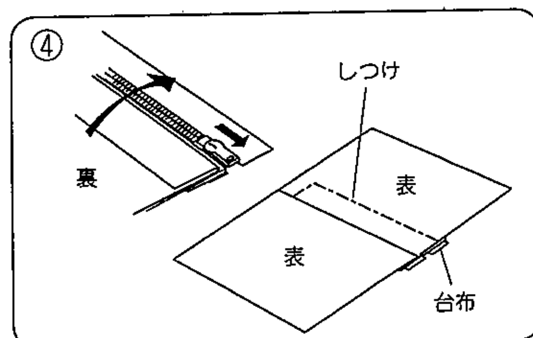
①ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



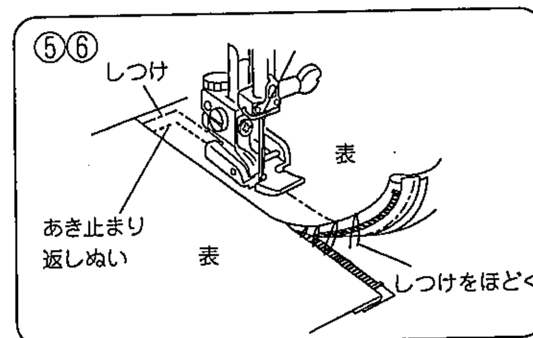
②押さえホルダーを押えの右側にセットして、むしのきわに押さえの端を当てて、あき止まりからぬいます。



③ファスナーの端から5cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、 押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

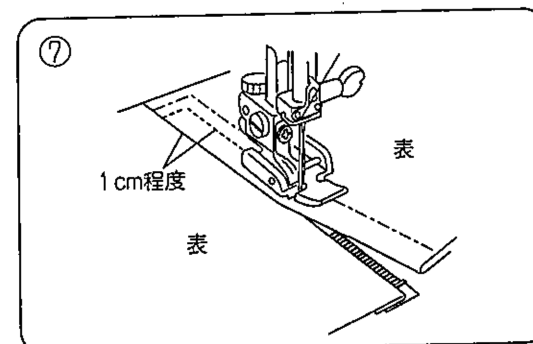


④ファスナーをとじ、スライダーを上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。



⑤押さえホルダーをファスナー押えの左側にセットします。
上の布のあき止まりを返しぬいし、むしのきわに押さえの端を当ててぬいます。

⑥ファスナーの上側を5cmくらい残したところでとめ、針をさげ押さえ上げをあげて、【準備】の手順②でぬったしつけ糸をほどきます。



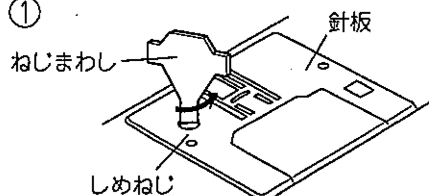
⑦スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

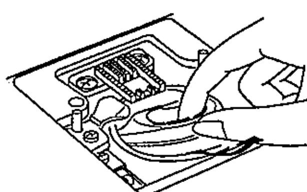
●ミシンの手入れ

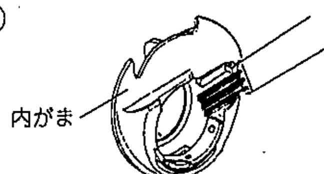


※手入れのときには、上下停針ボタンを押して針をあげてから、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
※手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。
※このミシンは、注油の必要がありません。

◎使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

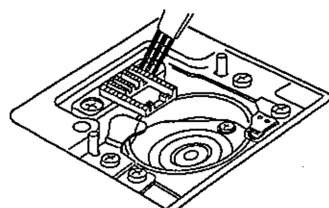


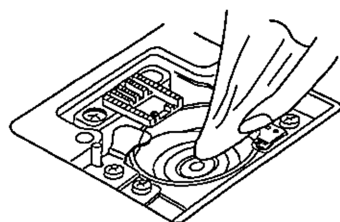




★かまの分解

①針と押さえをはずします。
②しめねじをはずし、針板をはずします。
③ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながらはずします。
④内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

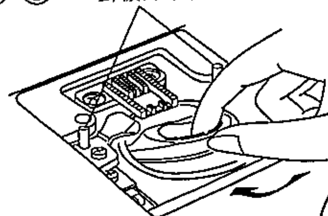


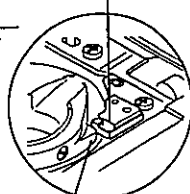


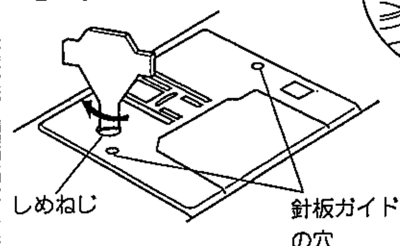
★かまと送り歯の掃除

⑤送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
⑥外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。







★かまの組みつけ

⑦内がまをさしこみます。
⑧内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
⑨ボビンを入れ、２箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、針板を取りつけます。
⑩しめねじをしめます。

※手入れが終わったら、忘れずに針と押さえをつけてください。

●こんな表示が出た場合

警告音とともに下記の表示があった場合、1.5秒間表示されます。下記の対処方法にしたがってください。

エラー表示	対処方法
Fc	1. フットコントローラーを接続した状態で、スタート・ストップボタンを押した場合に表示されます。 スタート・ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラーの接続をはずしてください。 2. ぬい中にフットコントローラーのプラグをさしこんだり、はずしたりした場合にも表示され、ミシンモータが停止します。 プラグの抜きさしは、電源を切ってから行ってください。
Lo	安全装置の作動により、ミシンモータが１５秒間緊急停止しているときにボタンを押すと表示されます。 しばらくおまちください。 糸がらみ等があった場合には、電源を切り、不要な糸を取り除いてください。 安全の為、ボタンホール押さえのまま、他の模様をぬわないでください。
SP	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに（　）、表示されます。
E1 等	電源投入時に表示された場合、ミシンが故障しています。 お買上げ店へご連絡ください。

★ブザー音の種類

ブザー音	内　容
ピッ	正しい操作をした場合の受付音です。
ピピピッ	不正な操作をした場合の禁止音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了等の終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる。	1．上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。または、糸調子皿よりはずれている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4．針のつけ方がまちがっている。 5．ぬいはじめに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 7．針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	10ページ参照 16ページ参照 19ページ参照 19ページ参照 13ページ参照 13ページ参照 19ページ参照
下糸が切れる。	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4．下糸がゆるく巻かれている。	8、9ページ参照 32ページ参照 ボビンを交換する。 巻く速度をはやくする。
針がおれる。	1．針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 4．布にくらべて針が細すぎる。	19ページ参照 19ページ参照 13ページ参照 19ページ参照
ぬい目がとぶ。	1．針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2．布に対して、針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、シャノメブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4．上糸の掛け方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	19ページ参照 19ページ参照 19ページ参照 10ページ参照 針を交換する。
ぬい目がしわになる。	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布にくらべて針が太すぎる 4．布にくらべてぬい目があらすぎる。 ＊特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあててぬってください。	16ページ参照 8、9、10ページ参照 19ページ参照 ぬい目を細かくする。
布送りがうまくいかない。	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が細かすぎる。 3．送り歯があがっていない。	32ページ参照 ぬい目をあらくする。 17ページ参照
ぬい目に輪ができる。	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	16ページ参照 19ページ参照
ボタンホールがうまくいかない。	1．布に対して、ぬい目の長さが合っていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	23ページ参照 22ページ参照
ミシンがまわらない。	1．コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4．コントローラーを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。	5ページ参照 32ページ参照 8ページ参照 5ページ参照
音が高い。	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。	32ページ参照 32ページ参照

※静かな部屋で使うと、「ウイーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※長時間使うと、表示窓と選択ボタンの部分の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。

●無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付け下さい。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。

1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
4）お買い上げ店、又は当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。

●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。

●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけ下さい。

蛇の目ミシン工業株式会社
〒104-8311 東京都中央区京橋3-1-1
TEL. 0120-277039（フリーダイヤル）
（受付　月曜日～金曜日
9時～12時
13時～17時）

仕様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	50W / ランプ 5W
外形寸法	幅 39.0cmX 奥行 18cmX 高さ 28cm
重量	8.3kg（本体）
使用針	家庭用　HA X 1
縫速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時（毎分 820 針）

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

蛇の目ミシン工業株式会社
〒104-8311東京都中央区京橋3-1-1 ☎(3277) 2361～2

843-800-108